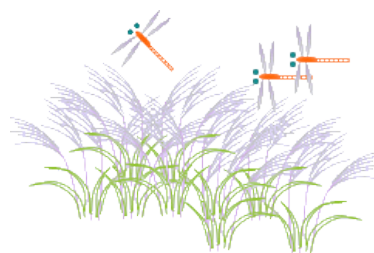


竹の里だより

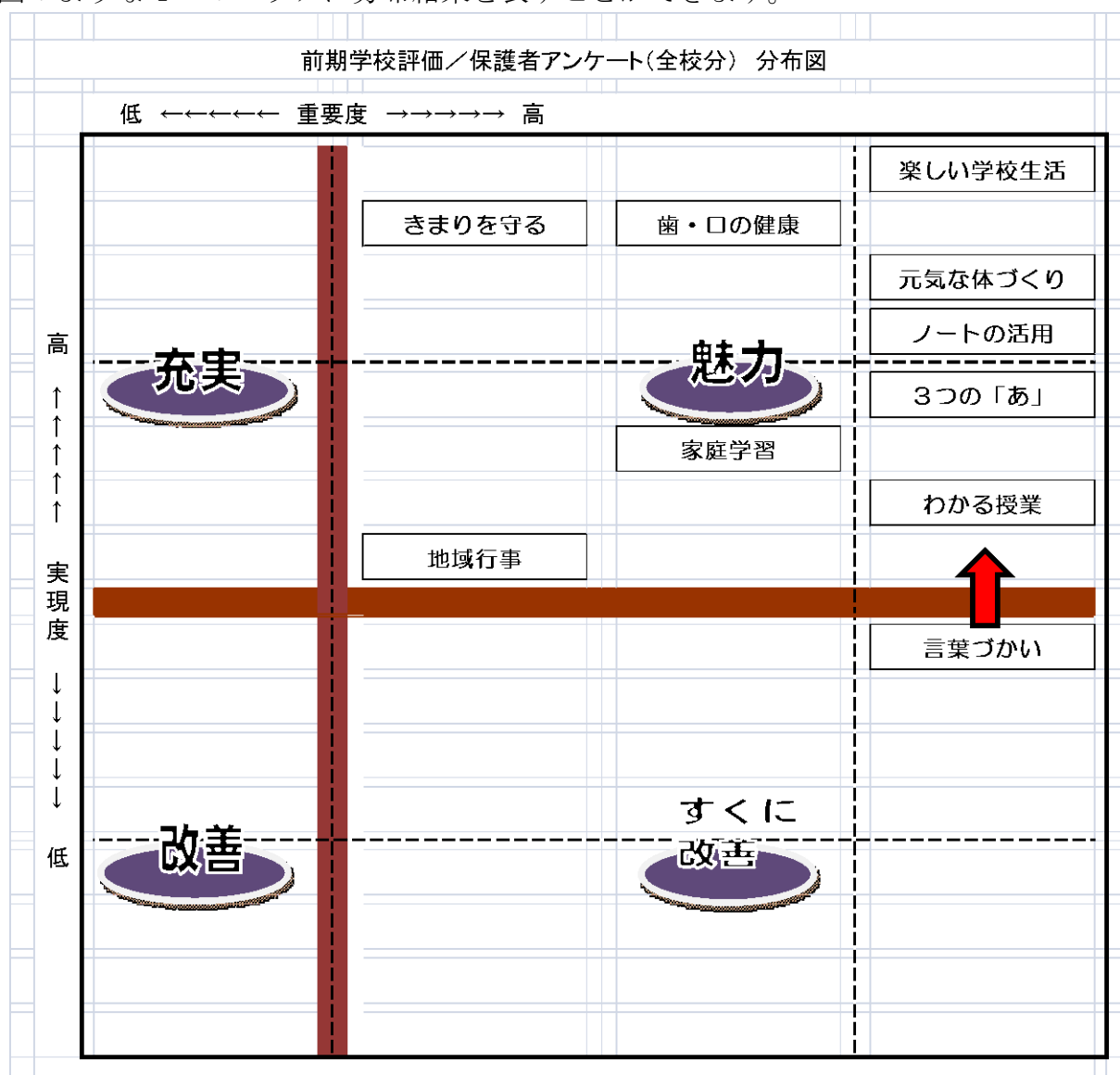


9月中旬にご協力いただきました学校評価アンケートは回収率87%でした。お忙しい中ご協力いただきましてありがとうございました。この回収率は昨年度と比べてほぼ同様に高い数値となりました。保護者の皆様方に高く評価いただいた点については気持ちを引き締めて、また厳しくご指摘いただいた点については早急に改善に着手し、よりよい学校づくりを目指していきます。また、これまで以上に各ご家庭に協力していただきたいことも明記しています。この結果を機に、今後とも学校と家庭が手を携えて「竹の里の子」の成長の歩みを力強く支えていけることを願っています。

結果の概要と今後の取組について、以下のようにご報告いたします。

1 今回の学校評価（保護者アンケート）の概観

「重要度—実現度（ニーズ度）調査型アンケート」を導入して行った今回の保護者アンケートでは、下図のような4つのエリアに分布結果を表すことができます。



- ・「魅力」には、9項目が集まり、とりわけ「楽しい学校生活」が送れているかどうかについては、最も実現度の高い項目でした。これは、児童アンケート（保護者アンケートと同様のジャンルをさらに細分化した20項目で実施）でも同様の結果となりました。「クラスの友達と一緒に勉強したり遊んだりするのは楽しいですか」という質問項目に対して、82.3%が「そう思う」17.1%が「大体そう思う」と回答し、合計すると99.4%の児童が学校生活は楽しいと回答しました。子どもたちが1日の大半を過ごす学校が、居心地の良い場所であることは大変喜ばしいことです。
- ・特筆すべきは、昨年度は【改善】領域にあった「ノートの活用」と「家庭学習」が、【魅力】領域にランクアップされたことです。取組が功を奏しているものと思われます。
- ・規範意識に関する項目で、「きまりを守る」についても重要度・実現度と共に高く、学校のきまりを守ることはもちろんのこと、社会のルールを守ることもしっかりとできていることが見て取れます。
- ・学習規律や規範意識にかかわる行動面の児童アンケートの結果は以下の通りでした。ほとんどの項目が「そう思う」「大体そう思う」を合わせて80%以上というほぼ満足できる結果となりました。とりわけ「地域で、人に迷惑をかける遊びや危ない遊びをしないように気をつけること」に対しては、95.8%という高い結果でした。ご家庭や地域の皆様の働きかけや見守りのお陰と感謝しております。しかしながら、「廊下や階段では、右側を静かの歩くこ」や「目上の人に対して丁寧な言葉を使って話すこと」については課題が残りました。学校では、子どもたちの意識改善に向けて、学級指導とともに児童会での取組も具体的に考えていきます。今後も、学校と保護者・地域が強い連携のもと、徹底した取組を進めていきたいと思ひます。

児童の実態調査項目	そう思う	大体 そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
年上の人には丁寧な言葉をつかって話してしますか	35.4	42.9	13.7	8.1
友だちや家族が悲しくなるようなひどい言葉づかいをしないように気を付けていますか	50.0	33.8	15.0	1.3
チャイムがなり始めたら、席に座って、次の準備をしていますか	42.7	37.8	18.3	1.2
「はい」と元気よく、気持ちのよい返事をしていますか	40.4	39.8	16.9	3.0
人に嫌なことをしたり、仲間外れにしたりしていませんか	72.1	16.4	6.4	5.0
階段や廊下では、右側を静かに歩いていますか	17.3	49.4	26.3	7.1
地域で、人に迷惑をかける遊びや、危ない遊びをしないよう気をつけていますか	77.8	18.0	3.0	1.2
（3つの「あ」）自分から進んであいさつをしていますか	44.6	41.0	12.7	1.8
（3つの「あ」）ありがとうの気持ちを進んで伝えていますか	59.5	35.1	5.4	0.0
（3つの「あ」）後から使う人のことを考えて、後始末をきちんとしていますか	47.3	39.5	11.4	1.8



2 後期に向けての課題と改善点

① 3つの「あ」

年度当初にお示しした『竹の里小学校の教育』の中に、明るく元気なあいさつの「あ」、あとしまつの「あ」、ありがとうの「あ」…この3つの「あ」が息づく温かい学校をめざしてという目標を掲げました。この3つの「あ」については、昨年度は【すぐに改善すべき】の領域という残念な結果でした。そこで、重点的に取り組むと共に今年度もアンケートの項目にあげました。取組の成果があり、今年度は77%に実現度が上昇し、【魅力】の領域に入りました。大変、嬉しいことです。

ただ、子どもたちの朝の様子を見てみると、「‘おはようございます’のあいさつ」については、年度当初の勢いが徐々になくなり、進んであいさつできない子どもが多いのが現状です。取組の再徹底の必要性を痛感しています。また、あとしまつの「あ」についても、学校内で気になる点は少なからず見受けられます。例えば、トイレのスリッパが乱れていてもそのままになっていたり、使った道具の片付けができていなかったりします。みんなが気持ちよく学校生活を送るためには、自分で責任をもって片付けることは勿論のことですが、気付いた人が進んで片付けることも大切です。学校では、教職員が同じ姿勢で、習慣づくまで子ども達の意識を育てていきたいと思っています。

② 言葉づかい

学校では、正しい言葉づかいや温かい言葉かけの大切さを指導するとともに、場に応じた正しい言葉づかいができるよう具体的に指導してきました。ところが、今回のアンケートでは、100%という高い重要度に対して、「お子さんは、言葉づかいに気を付けていると思われませんか」という項目では、「気を付けている」が16.7%「気を付けるようになってきている」が47.3%という結果で、【すぐに改善すべき】としてあがってきました。

そこで、今一度、気持ちを引き締めて取り組んでいかねばならないと感じています。子どもたちは、学校生活で一日の大半を学級で過ごします。「はい、～です。」や「先生、～ですか？」など、丁寧な言葉をつかうことから徹底して指導していきます。学級の中でこそ「親しき仲にも礼儀あり」の精神を大切にしていきたいと思います。また、「きしよい」「お前～やね」など、相手を傷つけるような言葉を簡単に発したり、「うるさい」「べつに」など短絡的な言葉で人と応対しようとしたりするような場面に出あうこともあります。子どもたちのトラブルはこうした言葉に端を発することが少なくありません。言葉は人と人を結ぶ架け橋です。言葉を大切に、自分の考えや気持ちを丁寧に伝える心を、道徳や日常の中で育てていきたいと思っています。

ご家庭におかれましても、兄弟姉妹で、弟や妹が兄や姉を呼び捨てにしたりすることはありますか。子どもが親や祖父母に対して不遜な物言いをすることはありませんか。また、保護者の皆様がそれをお許しになってはいませんか。社会のルールをしっかりと教えることと合わせ、ここは厳しく指導していただきたいと思います。

③ ノートの活用・子ども主体の授業

近年、学力を語る上で、基礎的・基本的な知識や技能の習得はもちろんのこと、これらを活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成することが重要な課題となっています。本校では、豊かな表現ができる子どもをめざして、子どもが主体的に考え、話したり書いたりする授業を行ってきました。また、ノート指導においても「写すノートから自分の思いや考えを書くノート」の指導に力を注いできました。とりわけ算数科の授業では、ノート指導の基本を全校で共通理解しながら日々の授業で活用しています。しかしながら、保護者アンケートや児童アンケートの回答結果から、その成果が十分定着しているとはいえないという実態が見えてきました。

児童の実態調査項目	そう思う	大体 そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
授業中は、よく考え、進んで発表していますか	26.9	38.8	28.8	5.6
ノートに、勉強したことや考えたことを丁寧に書いていますか	39.4	48.1	10.0	2.5

児童アンケートでは、上記のような回答結果となりました。この結果を我々教職員は真摯に受け止め、子どもが生き生きと表現する授業ができるように、またノートづくりの具体的な手本となる板書ができるように、日々研鑽を積んで指導に当たっていきます。また、大切にしたいノートづくりのポイントや、参考になるノート例を学級懇談会や学級だより等で積極的に紹介していきたいと思います。

ご家庭でも、子どものノートを見て、自分の考えたことや感想が書かれていれば、ぜひ褒めてあげてください。きっと、「次も頑張ろう」という意欲に繋がることでしょう。

3 学校関係者評価

学校評価アンケート結果を受けて、学校運営協議会理事会の理事の方々から、以下のような意見を頂戴しました。是非、今後の取組に生かしていきたいと思います。

① 3つの「あ」について

- 明るく元気なあいさつの「あ」、あとしまつの「あ」、ありがとうの「あ」…この3つは、『竹の里小学校の教育』として示されてから3年目になるが、とても重要であると思うので、今後もぜひ続けてほしい。
- 毎朝、校門で登校してくる子どもたちを迎えているが、「おはようございます」のあいさつの声がだんだん小さくなってきていると感じている。睡眠不足なのか、家庭で叱られてきたのかと想像をめぐらせて心配になる。曇りや雨天の日に比べて、晴れた日は声に元気があるように思う。あいさつの声は、気分の影響が大きいので、朝は、気持ちよく登校できるように家庭で気をつけてあげてほしい。
- 地域の中でも、あいさつしない大人がいる。学校関係者が、地域の中で進んで声かけをし、明るい雰囲気を広めていきたい。
- トイレのスリッパをそろえることができるような子どもに育てるには、大人が進んでスリッパをそろえている姿を、意識して子どもに見せていくことが大切である。学校でも家庭でも、大人が意識して行動していきたい。

② 言葉づかいについて

- 『子どもの言葉＝親の言葉』と昔からいわれている。正しい言葉づかいや温かい言葉かけの大切さ、場に応じた正しい言葉づかいなど、いくら学校で具体的な取組をしても、家庭での親の言葉づかいが伴わなければ、子どもの言葉づかいが良くなることの効果は期待できない。親の言葉は、子どもの言葉そのものである。
- 言葉のみならず、たくさんのことを学校と家庭が協力して子どもを育てていかなければならない。今回の結果を受けて、家庭でも具体的に取組んでもらいたい。

③ 子ども主体の授業について

- 学校生活において、子どもたちが、楽しく学ぶことができていることは、大変重要なことで嬉しいことだ。学び教室に来ている子どもたちの様子を見てみると、日々成長していると感じている。これからも、学校と地域が手を携えて、竹の里の子どもたちを見守っていききたい。